

## 30年8月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 8月1日～ 30年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## 素材生産動向

品目		30/8月	9月	10月
伐採動向	スギ	8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	12.5	25.0	25.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	10.0	20.0	40.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	0.0	16.7	16.7
	エゾ・トド	16.7	16.7	16.7
手持立木在庫動向	スギ	25.0	12.5	△ 12.5
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	16.7	16.7

・スギの伐採動向は8月の増加から9月、10月は横ばいに。ヒノキ、エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。カラマツは3カ月連続増加。

・スギ、エゾ・トドの出荷・販売動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは8月の横ばいから9月、10月は増加に。

・スギの手持立木在庫動向は8月、9月増加から10月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは8月、9月の横ばいから10月は減少に。エゾ・トドは8月の横ばいから9月、10月は増加に。

## モニターからのコメント

## (伐採動向)

- ・現在、国有林の素材生産事業のカラマツ間伐を実行中。現場状況がよいので天候が良ければ伐採動向はやや増加（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中で伐採、出材動向は横ばい。手持ち立木在庫に変動はない（北海道）。
- ・8月は盆休みがあり、伐採は減少（東北）。
- ・スギ、カラマツの皆伐を実施中で増加（東北）。
- ・ヒノキ高齢級の受光伐を実施中（中部）。
- ・スギ間伐を実施中で、当月横ばい、翌月やや増加、翌々月は増加（九州）。

## (出材・販売動向)

- ・一般流通材が減少しているので、出荷・販売動向はやや増加（北海道）。
- ・8月は盆休みがあり、出材も減少（東北）。
- ・木材センター出材しており増加（東北）。
- ・韓国へヒノキ丸太を輸出（中国）。
- ・豪雨災害のため出材減少も回復しつつある（中国）。

## (手持ち立木在庫)

- ・手持ちの立木在庫は、翌月の国有林の立木販売から購入予定（北海道）。
- ・手持ち立木は大きな変化なく横ばい（東北）。